

3 ブロックチェーン

技術力と組織対応力で お客様のブロックチェーン活用を推進していく

NTTデータは、EMEAL、北米、日本・アジアの3極体制でブロックチェーンの技術評価とビジネスにおける活用の検討を進めてきた。アプリケーション開発に加え、プラットフォームの提供といった新たなビジネスモデルも視野に入れ、2025年度には50億円を超えるビジネス規模の実現を目指している。

EMEAL、北米、日本・アジアの3極体制で推進

NTTデータにおけるブロックチェーンへの取り組みは、2017年ごろに始まっている。当時、ビットコインやイーサリアムなどのいわゆる暗号通貨が浸透し始めていた。その暗号通貨を支えるプラットフォームであるブロックチェーン技術に着目して、技術自体の評価を行うと同時に、そのユースケースの開拓と実行に向けて必要なことの見極め、ビジネスとしての適用可能性の検討を進めてきた。

ブロックチェーンの場合、情報を様々なところで所有することになるため、それぞれの国・地域の文化や成り立ちによって考え方や進展状況

は異なる。例えば、日本・アジアにおいてはトレーサビリティを中心に発展してきたが、近年ではデジタル証券や、不動産を小口細分化し売買しやすいものとしたセキュリティトークンなどが注目を集めている。一方、アメリカでは、民間企業がステーブルコインを活用するなど、DeFi分野が活性化しており、欧州においては、DeFiに加えて、環境情報の流通がトレンドとなっている。

NTTデータにおいても、このような地域ごとの特徴を捉え、EMEAL（欧州中南米）、北米、日本・アジアの3地域に拠点を設けて取り組みを進めてきた。



株式会社 NTT データ
技術革新統括本部 技術開発本部
コンピテンシセンタ
課長 山下 真一氏

3つのグローバル連携テーマを定義

これまでの活動および今後のトレンドを踏まえ、今後グローバルで連携し強化を図っていく3つの主要テーマを定義した。

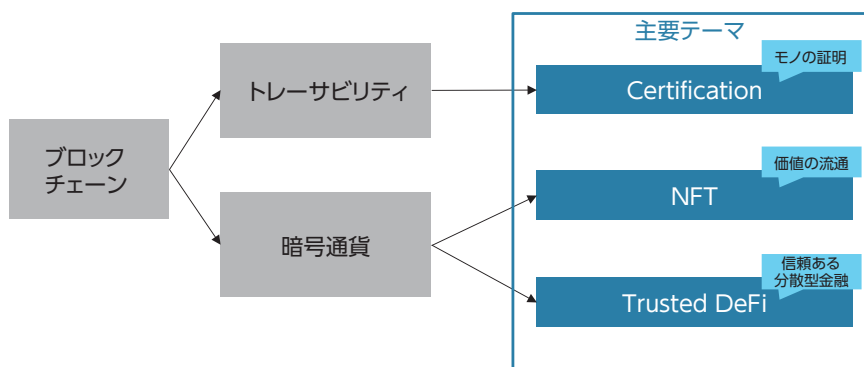


図1 グローバル連携テーマ

Certification

これまでも、食品の原産地証明、付加価値製品の証明ニーズなど、トレーサビリティの取り組みを進めてきた。近年では、生産過程における二酸化炭素ガス排出量の記録など、環境価値証明に対するニーズも高まっている。

今後は、追跡することに価値があるもの、投資対効果が期待できる高

価値品や規制対象製品をより重視していく。さらに、これまでの取り組みで得られた知見やノウハウのグローバル展開も促進していく。

NFT（非代替性トークン）

NFTは、これまで投機的イメージも強かったが、徐々に実用フェーズに移行しつつある。今後は、モノの背景にある考え方や制作ストーリーなどをデジタルで表現したり、会員権などリアルな価値と連動させるなど、流通させていくことに意味があるもの、付加価値につながり交換価値のあるものを見極めていくことが必要となっていくであろう。

お客様と顧客を結び付けるためのトークン発行・流通に関わるプラットフォームを構築するとともに、お客様が顧客基盤を拡大していくためのプロデュースなどより多くのビジネスチャンスを得るためのコンサルティングという、両軸での展開に取り組んでいく。

Trusted DeFi（分散型金融）

現状のDeFiは、責任の主体が明確でなく、問題が生じた際の消費や

投資家の保護が十分ではない。そこで、NTTデータとしては、信頼する機関の関与があるモデルにフォーカスして、Trusted DeFi（“信頼ある”DeFi）の確立に向けた取り組みを進めている。

これまで各国において培ってきた中央銀行や金融機関との関係性を活かして意見交換を行い、ルール策定に関与しながらニーズの分析を進め、近い将来の市場形成に向けた活動を推進している。

国家的戦略プロジェクトに 参画

内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「スマートバイオ産業・農業基盤技術」による研究開発モデル事業に採択された「スマートフードチェーンプラットフォームの構築」プロジェクトは、日本の生産者の情報や輸送中の温度管理などのトレーサビリティを、ブロックチェーン技術を用いて記録し、品質担保や消費者向けの情報発信に活用していこうというものである。

海外における日本の農林水産物や食品の価値を向上させ輸出の拡大を

目指すとともに、フードロスの削減にもつなげていく。

プロトタイプスマートフードチェーンシステムが完成し、今年度より本格実証試験が開始されている。

NTTデータは、本プロジェクトにおいて、技術的な貢献とともに、関連する複数の企業の利害関係を調整しプロジェクトを推進していく役割も担ってきた。このような、組織面でのノウハウの蓄積も、今後さらに活用していける部分であると考えている。

合意形成やルール作りでの 貢献も進める

2017年にブロックチェーンの取り組みを始めた際には、この技術によって物事が一気に代わり新しい世界が作られるのでは、という見方もあった。しかし、これまでの取り組みを通して、技術だけでは世の中は動いていかないということも実感してきた。

業界における合意形成や社会でのルール作りなどが行われて初めて、技術が活用されるものとなり、世の中が動きだしていく。

NTTデータには、様々な分野において業界横断プラットフォームの構築を担ってきたノウハウが多数ある。ブロックチェーンにおいても、最先端技術対応力の強化を一層図っていくと共に、コーディネーションや組織対応という面でも、貢献を進めていきたいと考えている。



図2 Certificationでの活用事例